

「中世哲学特講 B」

ヨーロッパ中世哲学における存在と生成の問題を考える

A. シラバス

A-1. 基本情報

科目名・単位・開講期 中世哲学特講 B・2 単位・秋学期

曜日・時限・教室 水曜日・2 時限 (10:40-12:10)・6405 教室

担当教員 上村 直樹 (KAMIMURA, Naoki)

A-2. 講義の目的・内容

この講義では西欧中世における哲学の歴史的な展開について、「存在と生成」に関わる問いを切り口にして考える。この問いは古代から中世にいたる哲学者・神学者の関心事として追求され、近世になるとライプニッツやカントの哲学の展開に影響を与えました。

この講義では近世へ継承された中世の哲学的・神学的な思考の歴史的な展開に配慮しながら、中世の哲学者・神学者がこれらの問題といかに向きあったかを考える。

A-3. 学修到達目標

A. 西欧古代から中世における哲学史的な展開を捉える。

B. 哲学の基本的なテーマの実態とそのテーマを考察するための概念を理解する。

C. 哲学史的な展開を踏まえたレポートを作成し、これらの問題について更に深く考える。

A-4. 講義スケジュール

第 1 回 西欧中世の哲学史的な展開を学ぶための指針の説明

第 2 回 古代から中世にいたる哲学的な展開を概括する

第 3 回 「古代から中世にいたる哲学的な展開を概括する」に関する質疑応答と背景の解説

第 4 回 古代ギリシア哲学の端緒における生成と存在

第 5 回 「古代ギリシア哲学の端緒における生成と存在」に関する質疑応答と背景の解説

第 6 回 プラトンのイデア論

第 7 回 「プラトンのイデア論」に関する質疑応答と背景の解説

第 8 回 アリストテレスにおける「不動の動者」

第 9 回 「アリストテレスにおける「不動の動者」」に関する質疑応答と背景の解説

第 10 回 キリスト教における世界の生成と展開

第 11 回 「キリスト教における世界の生成と展開」に関する質疑応答と背景の解説

第 12 回 中世における古代哲学の「存在と生成」理解の受容

第 13 回 「中世における古代哲学の「存在と生成」理解の受容」に関する質疑応答と背景の解説

第 14 回 エックハルトにおける「神の生成」の教説

第 15 回 「エックハルトにおける「神の生成」の教説」に関する質疑応答と背景の解説

A-5. 指導方法

- A. 対面授業と非対面（メディア）授業を組み合わせたブレンド型によって実施する
- B. 非対面（メディア）授業においては、配信されるテキストの考察に集中するとともに、インターネット環境を活用することによって質疑応答を進める
- C. 対面授業においては、質疑応答を踏まえた解説を哲学史的な背景も含めて行うことによって、配信内容をより深く理解することを目指すとともに、新たな質疑応答を試みる。

〈授業の形態〉

対面授業と非対面（メディア）授業それぞれのメリットを考慮したうえで、二つの授業の形態を隔週に組み合わせるブレンド型授業によって実施する。

受講者は先行する非対面（メディア）授業において講義各回のテーマに関するテキスト配信を受け取った上でその内容を検討し、疑問の箇所や考察すべき論点を記入した「コメントシート」を ToyoNet-ACE 経由で提出する。つづく次週の対面授業において、コメントシートへの質疑応答を行なうとともに哲学史的な背景について学ぶ。

非対面（メディア）授業ではアプリケーションの Discord を利用するとともに ToyoNet-ACE を併用するので、これらを利用するための端末とインターネット環境が必要となる。対面形式で行なわれる初回授業のガイダンスにおいて授業の形態の詳細と注意事項について説明する。

A-6. 事前・事後学習

事前学習について、非対面（メディア）授業では特段の予習を求めない。対面授業では前回のノートを再度検討する。この事前学習の所要時間の目安は 30 分程度とする。

事後学習においては、配信テキストを振り返って疑問点に対する確認を進める。この事後学習の所要時間の目安は 30 分程度とする。

A-7. 成績評価の方法・基準

「コメントシート」を中心とした授業への貢献度の評価 50%、学期末のレポート 50% によって総合的に評価する。非対面（メディア）授業への出席は ToyoNet-ACE 経由で提出される「コメントシート」によって判断する。なお、成績評価の基準は東洋大学の成績評価基準に準拠している。

A-8. 受講要件

特段の要件はない。

A-9. テキスト

非対面（メディア）授業においてインターネット上のアプリケーションを通じて配布する。なおアプリケーションの利用が困難になる場合は別途その手段についてメーリングリストを介して連絡する。

A-10. 参考書

第 I 回目の授業において参考文献の一覧表を配布する。また、必要におうじて担当教員のウェブサイトにおいて文献表や参考資料をアップロードするので、担当教員の指示にしたがってアクセスしてほしい。

B. 中世哲学における「存在と生成」の問題を学ぶために

B-I. 古代思想史略年表

BC 6-5	<i>Presocratic Philosophers</i> : Thales, Anaximandros, Anaximenes, Pythagoras, Heraclitus, Anaxagoras, Parmenides, Zenon of Elea, Empedocles, Leucippos, Democritus; <i>Pythagorean tradition</i>
BC 5	<i>Sophistics</i> : Protagoras, Gorgias
448	アテナイ黄金時代
431-404	ペロポネソス戦争
399	† Socrates
347	† Plato; アカデメイア設立
338	† Isocrates
323	アレクサンドロス大王逝去、ヘレニズム期の始まり
322	† Aristotle; リュケイオン設立
BC 4-	<i>Hellenistic Schools</i> : Epicuro; Zenon of Cition, Cleanthes, Chrysippus, Panaetius, Posidonius; Arcesilaus, Carneades, Philo of Larissa; Pyrrho of Elis, Sextus Empeiricus; Antiochus of Ascalon; Plutarch; Seneca, Epictetus, Marcus Aurelius
BC 3-	ギリシア語訳聖書 (Septuaginta) の成立
84/83	† Philon
c. 50	Andronicus of Rhodes による「アリストテレス全集」(Corpus Aristotelicum) 編纂
43	† Cicero
30	プトレマイオス朝がローマによって滅ぼされ、グレコ・ローマン時代がはじまる
30	† Jesus
45	† Philon
64	† Paul
AD 2 fin.	新約聖書の「正典化」(Canonisation) がほぼ完了
c. 253/4	† Origen
270	† Plotinus (<i>Neoplatonists</i> : Porphyry, Iamblichus)
313	ミラノ勅令 (ローマ帝国によるキリスト教公認)
325	第 I ニカイア公会議 (アリウス派異端とされる)
379	† Basil of Caesarea
381	第 I コンスタンティノーブル公会議 (三位一体論が確定)
c. 382	ヒエロニムスによるラテン語訳聖書改訂の開始 (Vulgata)
392	テオドシウス帝の異教禁止令
394	† Gregory of Nyssa
430	† Augustine
451	カルケドン公会議 (キリストの両性論が確定)
476	西ローマ帝国滅亡
485	† Proclus
495	Clovis の洗礼
524/25	† Boethius
529	アテナイのアカデメイアがユスティニアヌス帝の命により閉鎖、 ベネディクトスがモンテ・カッシーノ修道院創設
533	シンプリキオスがアリストテレス註解を執筆
AD 6?	ディオニシオス文書が東方で成立
622	Hijra (ヒジュラ=イスラム共同体が成立)
711/12	イスラムによるスペイン征服
c. 754	† Joannes Damascenus (最後のギリシア教父)
800	Charlemagne 戴冠 (Carolingian Renaissance)

B-2. 中世思想史略年表

800	Charlemagne 戴冠 (Carolingian Renaissance)
877	† Eriugena
950	† Al-Fārābī
1037	† Ibn Sīnā (Avicenna)
1054	東西教会の分裂
1077	カノッサの屈辱 (教皇権全盛へ)
1095	第 1 回十字軍の提唱
1109	† Anselmus (Cantabury)
1111	† Ghazālī (Algazel)
c. 1142	† Abelardus
1153	† Bernard de Clairvaux
12 init.–	<i>Chartres School</i> : Bernard de Chartres, Thierry, Guillaume de Conches, John of Salisbury <i>Saint-Victor School</i> : Hugo de sancto Victore, Ricardus
c. 1158	Petrus Lombardus, <i>Sententia</i>
1198	† Ibn Rushd (Averroes)
c. 12 fin.–	ヨーロッパ各地に大学創立 (Bologna, Sorbonne, Oxford, Padova, Napoli)
1216	ドミニコ会 Ordo fratrum Praedicatorum 認可
1223	フランシスコ会 Ordo Fratrum Minorum 認可
1226	† Francisco (Assisi)
1231	パリ大学へのグレゴリウス 9 世の大勅書
1274	† Thomas Aquinas — † Bonaventura
1277	パリ司教による異端的なアリストテレス主義への禁令
1280	† Albertus Magnus
1284	† Sigerus (Brabant)
1292/4	† Roger Bacon
1293	† Henricus (Ghent)
1308	† Joannes Duns Scotus
1309	アヴィニヨン捕囚 (-1377)
1328	† Meister Johannes Eckhart
1340's	黒死病流行
1347	† William Ockham
1358	† Jean Buridan
1378(-1417)	2 教皇並立による教会大分裂
1464	† Nicolaus Cusanus
1499	† Marcilio Ficino
1517	Luther 95 theses (宗教改革)
1519	† Leonardo da Vinci
1527	† Marchiavelli
1530	Collège de France 設立
1534	イエズス会 Societatis Iesu 創設
1592	† Montaigne
1617	† Suárez
1645	† Grotius
1650	† Descartes

C. 参考文献

この講義では、中世における哲学史的な展開について「存在と生成」という切り口を手がかりに考えていきます。そこで、それらの問題群について、さらに古代から中世における哲学的な営為について学ぶために参考となる文献を紹介します。

C-1. 原典テキストの翻訳

以下の一覧以外にも多数公刊されている個々の著作家の原典テキスト翻訳については、以下 C-2 のなかの文献（例えば、20, 23）に所収の参考文献リストにあたってください。

1. 『ソクラテス以前哲学者断片集』全 5 冊＋別冊，内山勝利編，岩波書店，1996-98.
2. 『初期ギリシア自然哲学者断片集』全 3 巻，日下部吉信編訳，ちくま学芸文庫，2000-01.
3. 『プラトン全集』全 15 巻，岩波書店，1974-76.
 ¶ この全集の構成内容、ならびに個別に刊行されたプラトンの著作の日本語訳の一覧（京都大学学術出版会の「西洋古典叢書」や光文社の「古典新訳文庫」などに所収）については <https://kmmrnk.com/resources/> にアップロードされている PDF ファイル Plato's Works translated into Japanese を参照。
4. 出隆監修・山本光雄編集『アリストテレス全集』全 17 巻，岩波書店，1968-73.
5. 内山勝利・神崎繁・中畑正志編集『新版 アリストテレス全集』全 20 巻，岩波書店，2014-刊行中.
 ¶ この全集の構成内容、ならびに個別に刊行されたアリストテレスの著作の日本語訳の一覧（京都大学学術出版会の「西洋古典叢書」や光文社の「古典新訳文庫」などに所収）については <https://kmmrnk.com/resources/> にアップロードされている PDF ファイル Aristotle's Works translated into Japanese を参照。
6. 『初期ストア派断片集』全 5 巻，西洋古典叢書，京都大学学術出版会，2000-2006:
 第 1 巻 中川純男訳「ゼノン他」
 第 2 巻 水落健治・山口義久訳「クリュシッポス」
 第 3 巻 山口義久訳「クリュシッポス」
 第 4 巻 中川純男・山口義久訳「クリュシッポス」
 第 5 巻 山口義久・中川純男訳「クリュシッポス他」
7. ディオゲネス・ラエルティオス『ギリシア哲学者列伝』上・中・下，加来彰俊訳，岩波文庫，1984-94.
8. 『プロティノス全集』全 4 巻＋別巻，田中美知太郎・水地宗明・田之頭安彦訳，中央公論社，1986-88.
9. 岡道男・片山英男・久保正彰・中務哲郎編集『キケロー選集』全 16 巻，岩波書店，1999-2002.
10. 上智大学中世思想研究所編訳・監修『中世思想原典集成』全 20 巻＋別巻，平凡社，1992-2002:
 第 1 巻 小高毅 編訳監修『初期ギリシア教父』，1995.
 第 4 巻 加藤信朗 編訳監修『初期ラテン教父』，1999.
 第 5 巻 野町啓 編訳監修『後期ラテン教父』，1993.
 第 6 巻 大谷啓治 編訳監修『カロリング・ルネサンス』，1992.
 第 7 巻 古田暁 編訳監修『前期スコラ学』，1996.

第 8 巻 岩熊幸男 編訳監修『シャルトル学派』, 2002.

第 9 巻 泉治典 編訳監修『サン=ヴィクトル学派』, 1996.

第 12 巻 坂口昂吉 編訳監修『フランシスコ会学派』, 2001.

第 13 巻 箕輪秀二 編訳監修『盛期スコラ学』, 1993.

第 14 巻 山本耕平 編訳監修『トマス・アキナス』, 1993.

第 16 巻 木村直司 編訳監修『ドイツ神秘思想』, 2001.

第 18 巻 稲垣良典 編訳監修『後期スコラ学』, 1998.

¶ 全巻の構成についてはhttps://kmmrnk.com/mediaeval-philosophy/corpus_fontium/を参照。
また、以上の翻訳からの抜粋集が「平凡社ライブラリー」に所収の『中世原典思想集成精選』全 7 巻として、2018-19 年に刊行されている。

11. 小高毅編『原典古代キリスト教思想史』1 初期キリスト教思想家; 2 ギリシア教父; 3 ラテン教父, 教文館, 1999-2001.
12. 『キリスト教教父著作集』全 22 巻, 教文館, 1987-刊行中: ユスティノス、エイレナイオス、アレクサンドリアのクレメンス、オリゲネス、ミヌキウス・フェリックス、テルトゥリアヌス、キプリアヌス、ラクタンティウス、ヒッポリュトス、エウセビウスの著作を含む。
13. 『アウグスティヌス著作集』全 30 巻, 教文館, 1979-2023.
¶ この全集の構成内容、ならびに個別に刊行されたアウグスティヌスの著作の日本語訳の一覧については<https://kmmrnk.com/resources/>にアップロードされている PDF ファイル Augustine's Works translated into Japanese を参照。
14. 『アンセルムス全集』古田暁訳, 聖文舎, 1980.
15. トマス・アキナス『神学大全』高田三郎・山田晶・稲垣良典他訳, 全 45 巻, 創文社, 1960-2012.
¶ 2020 年に廃業した創文社から出版されていた他の多くの書籍と同様、この全 45 巻からなる翻訳は現在全て「創文社オンデマンド叢書」として<https://sobunsha.bookstores.jp/>から入手可能である。
16. 山田晶編訳『トマス・アキナス』全 2 巻, 川添信介補訂, 中公クラシックス, 中央公論社, 2014.
17. ボナウェントゥラ『魂の神への道程注解』長倉久子訳注, 創文社, 1993.

c-2. 古代・中世哲学史

ここでは、比較的大部でなく読みやすいものを刊行年の古いものから順に挙げている。より詳細な、また個別の著作家や哲学動向にテーマを絞った文献については、それぞれの書籍のなかで紹介されている。

18. A. H. アームストロング『古代哲学史 タレスからアウグスティヌスまで』岡野昌雄・川田親之訳, みすず書房, 1987.
19. 岩田靖夫・坂口ふみ・柏原啓一・野家啓一『西洋思想のあゆみ ロゴスの諸相』有斐閣, 1993.
20. 『西洋哲学史 古代・中世編 フィロソフィアの源流と伝統』中川純男・内山勝利編, ミネルヴァ書房, 1996.
21. T. アーウィン『西洋古典思想—古代ギリシア・ローマの哲学思想』川田親之訳, 東海大学出版会, 2000.
22. K. リーゼンフーバー『西洋古代・中世哲学史』平凡社ライブラリー, 平凡社, 2000.

23. K. リーゼンフーバー『中世思想史』平凡社ライブラリー，平凡社，2003.
24. J. アナス『古代哲学』一冊でわかる，岩波書店，2004.
25. 熊野純彦『西洋哲学史 古代から中世へ』岩波新書，岩波書店，2006.
26. 伊藤邦武・山内志朗・中島隆博・納富信留 責任編集『世界哲学史』全 8 巻＋別巻，ちくま新書，2020:
 - 第 1 巻 古代 I 「知恵から愛知へ」
 - 第 2 巻 古代 II 「世界哲学の成立と展開」
 - 第 3 巻 中世 I 「超越と普遍に向けて」
 - 第 4 巻 中世 II 「個人の覚醒」
 - 第 5 巻 中世 III 「バロックの哲学」

c-3. 中世哲学を学ぶために必要なキリスト教の理解を目指して

27. 加藤隆『一神教の誕生—ユダヤ教からキリスト教へ』講談社現代新書，講談社，2002.
28. 手島勲矢編『わかるユダヤ学』日本実業出版社，2002.
29. 八木谷涼子『なんでもわかるキリスト教大事典』朝日文庫，朝日新聞出版，2012.
30. R. L. ウィルケン『キリスト教一千年史 地域とテーマで読む』全 2 巻，大谷哲・小坂俊介・津田拓郎・青柳寛俊訳，白水社，2016.
31. A. E. マクグラス『キリスト教思想史入門 歴史神学概説』神代真砂実・関川泰寛訳，キリスト新聞社，2008.
32. J. N. D. ケリー『初期キリスト教教理史』上下，津田謙治訳，一麦出版社，2010.

c-4. 中世哲学を多方面から捉えるために

33. J. ルゴフ『中世の知識人 アベラールからエラスムスへ』柏木・三上訳，岩波新書，岩波書店，1977.
34. C.H. ハスキンス『十二世紀ルネサンス』別宮・朝倉訳，みすず書房，1989.
35. 廣川洋一『ギリシア人の教育』岩波新書，岩波書店，1990.
36. D. ラスカム『十二世紀ルネサンス 修道士、学者、そしてヨーロッパ精神の形成』鶴島広和訳，慶應義塾大学出版会，2000.
37. J. ヴェルジェ『入門 十二世紀ルネサンス』野口洋二訳，創文社，2001.
38. 『西欧精神の探究 革新の十二世紀』上下，堀米・木村編，NHK ライブラリー，2001.
39. 納富信留『ソフィストとは誰か？』ちくま学芸文庫，筑摩書房，2006.
40. 神崎繁『魂（アニマ）への態度——古代から現代まで』岩波書店，2008.